

多様な植物

三陸海岸の大部分と同様、碁石海岸は南から流れてくる暖かい黒潮と、亜寒帯の北から冷たい水運んでくる親潮の2つの海流が合流する環境に恵まれています。この海流の合流は、多様な魚などの海洋生物を育む養分の豊かな海を生みだします。陸上では、この現象が暖かい冬と涼しい夏をつくりだすため、この地域は厳しい気候と穏やかな気候の両方で育つ多様な植物にとっての理想的な生息地となっています。

ハナショウブ

この野生種の菖蒲の仲間は、黄色の斑点がある赤紫色の花弁を持ちます。アジア北東部のほとんどの地域で湖沼に自生していますが、栽培もされています。この花の群落は、えびす浜の駐車場付近で見られます。

ハマギク

ハマギクは三陸沿岸の植物として良く知られています。この強い低木は乱曝谷の崖面で見られ、強い風と潮流に耐えて秋に花を咲かせます。成長すると茎が木のように硬くなります。

コハマギク

この秋の花は三陸海岸のやや内陸部に生育しています。キク科に属するコハマギクは晩秋に開花します。

ゼンテイカ/ニッコウキスゲ

花の形は似ているものの、この多年草は英名に反してユリの仲間ではありません。夏に開花する黄色味を帯びたオレンジ色の花は、朝開くと夕方にはしぼんでしまいます。

スカシユリ

このユリは三陸海岸沿いの岩場や砂地によく生育しています。ユリとしては珍しく花が上を向いており、花弁の付け根の隙間は雨水が溜まるのを防いでいます。

ツリガネニンジン

夏から秋にかけて、碁石海岸ではこの薄紫色あるいは白色の小さな釣鐘型の花が茎から下向きに垂れ下がって咲いているのが見られます。この花の和名は、花の様子と大きな根に由来します。

Tsurigane は「釣鐘」、ninjin は「人参」という意味です。

カタクリ

春に花を咲かせるこの植物は、碁石海岸のあちこちに群落を形成しています。花を咲かせるまでの7～8年の間、この植物にはたった1枚の葉しかありません。逆向きに広がる繊細な花びらにちなみ、

カタクリは、森の妖精と呼ばれることもあります。

カキラン

このラン科の植物は、日当たりのよい湿地に生息し、夏に花を咲かせます。花は小さいものの、柿色の花弁が印象的です。カキランは碁石埼灯台周辺に群生しています。

ササバギンラン

このランは細長い葉を持ち、茎の先端に小さな白い花を数個咲かせます。和名は葉の形が似ているササにちなんだものです。近縁種のキンランも同じ時期に花を咲かせます。

ハマハイビヤクシン

この海岸に生育する常緑低木は、海岸沿いの岩場に這うようにして生えています。低く水平に伸びている形状のおかげで、強風に耐えることができます。ハマビヤクシンは三陸地方を代表する海岸植物の一つです。

ヤマユリ

この夏に花を咲かせる植物は、碁石海岸でよく見られます。開花まで5年かかり、古い株ほど多くの花を咲かせます。花の放つ甘い香りは、夕方になると一層強くなります。

ヤブツバキ

この野生種のツバキは大船渡市の市の花です。地元では主に観賞目的で使われますが、料理、お茶の原料、染色に利用されるほか、肥料や木炭としても使われています。三陸地方では、ヤブツバキが日常生活のいたるところで見られます。

オナンバンギセル

葉を持たず光合成も行わないこの紫色の小さな花は、草の根に寄生して育ちます。「煙煙管」を意味する和名は、オナンバンギセルが横に長い茎の先に花を咲かせる姿にちなんだものです。

ミミガタテンナンショウ

この植物の目を引く赤みがかった縦長の筒は、花ではなく、この植物の葉が変化した苞という部分です。筒の端が仏像の長い耳たぶのように垂れ下がっていることから、この部分は日本語で「仏炎苞」と呼ばれます。

オカトラノオ

この植物の小さな白い星形の花は、茎に沿って先の細い房状に咲きます。茎が優雅な曲線を描いて垂れ下がることから、その形状を表す英名（Gooseneck loosestrife）と「虎の尾」を意味する

和名がつけられました。

ガマズミ

初夏に白い小さな花をたくさん咲かせ、秋には宝石のような真っ赤な実と色とりどりの葉をつけるなど、この大型落葉低木は季節によってさまざまな表情を見せます。大きな丸い葉は細かい毛で覆われています。

ヒサカキ

この常緑低木のつやのある葉は厚く革のような質感を持ち、初春から咲くクリーム色のベル型の花は短い茎に垂れ下がっています。花期には、インフォメーションセンター前のプロムナードはヒサカキの独特の香りに包まれます。末崎半島では、枝と葉が宗教的な儀式に使われます。